

eco japan cup & REVIVE JAPAN CUP ツインコンテスト 2014 受賞プラン概要

<eco japan cup>

【ビジネス部門：環境ビジネス・ベンチャーオープン】

◇敢闘賞 『リユース品の売買を行うプロ向けリユース市場』／株式会社 Negotiator(埼玉県川口市)

リサイクルの前にリユース出来る商材は沢山ある一方、現実では多くがリサイクルショップなどに売却される前に廃棄されている。企業・一般家庭問わず、不要になった家具、家電、雑貨、オフィス家具などを廃棄やリサイクルに回す前に、リユース出来る商品を古物市場でリユースショップやリサイクルショップなどの古物免許取得業者に転売するシステム運営を行い、CO2 を排出しないリユース市場を国内のみならずアジアから世界に広げる。



◇審査員応援賞 『空き駐車場を使ったシェアパーキングビジネス』／軒先株式会社(東京都目黒区)

軒先パーキングは、分散する不稼働空き駐車場と利用ニーズをネット上でマッチさせ、開発や投資なしに一日単位で貸し借りできる仕組みを提供。オーナーは、戸建て住宅の空き駐車場、分譲マンションや賃貸アパートの空き駐車場、契約が決まらない月極駐車場の空き区画などをネット上で外部に貸し出しでき、一日単位で収益化が可能。駐車場を探す方は、目的地に近い駐車場を予約でき、現地で駐車場を探し回る手間が省けキャッシュレスで利用可。周辺の迷惑駐車や混雑緩和にも貢献。

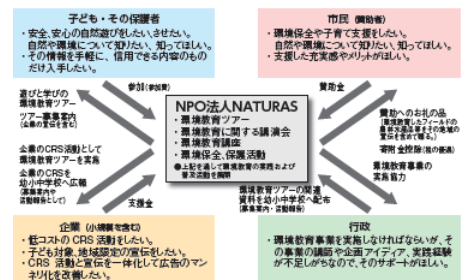


◇ギフトファンド賞

『遊・学・食の環境教育ツアーを企業・市民・行政が【得】してサポートできちゃうプラン』

／特定非営利活動法人 NATURAS(北海道函館市)

地域の自然環境を活用し、子ども向けのグリーンツーリズムとして①北海道の自然と人間を共生について学ぶ環境教育ツアーを実施する②その環境教育事業の成果を支援してくれた企業の宣伝・CRS として活用、広報する③その環境教育事業に寄付してくれた賛助者へ、その自然で生産された特産を贈る④環境ツアーの募集、環境教育ツアー、支援企業、賛助者への特典を紹介するエコパンフの発行や WEB サイト作成により環境啓発を行う。



【カルチャー部門：エコデザイン】

◇グランプリ 『Motete=モッテテ』／SHOGENZ(ショーゲン)(奈良県大和高田市)

当時 3 歳の息子を連れて買い物に行き荷物を持つと手をつなぐことが出来ないで迷子にならないよう良いものは無いかと考え思いついた。手をつなぐ代わりに Motete をにぎらせる。イクメンパパもファッション感覚でジーンズにぶら下げられる。ベルト通し、バッグに簡単に装着できる。木のぬくもりで安心感があり、子供が握りやすい。奈良県の吉野檜、ゴムひもを再利用して制作。子供も気に入ってしっかり握り、シンプルでおしゃれに使える。



◇準グランプリ 『ビジネスチャリフク/chari cog suit』／岩崎 恵子(岡山県岡山市)

健康やエコロジーへの関心の高まりもあり、昨今多くの人々が車通勤から公共交通機関や自転車を利用しての通勤に切り替えつつある。しかし、現時点で自転車通勤をする人々の多くは、着替えをバッグに詰め込み、自転車用の衣類で通勤している。自転車用ビジネススーツも見かけるようにはなったが、ほとんどが紳士服。まだまだ女性のためのそれは流通していない。そこで、女性も快適に自転車通勤が出来、着替えずに仕事を始めることが出来るビジネススーツをデザインしたいと思った。



【カルチャー部門： エコアート】

◇グランプリ 『リビングルーム』／北澤 潤(東京都目黒区)

商店街の空き店舗を舞台に住民同士が家具や生活用品を物々交換しながら、集まった物を家庭のリビングのように配置し、地域の中に「ひらかれた居間」を作りだしていくアートプロジェクト。何も無い空き店舗にカーペットを敷き詰め、不要な家具を住民から集めてカーペットの上に配置。「居間」のような空間ができたのちに、家のものと《リビングルーム》にあるものを物々交換できるシステム。まさに「LIVING ROOM=生きている部屋」として変わり続けるこのプロジェクトは、新たな人の関係性と地域活動を創出する場である。



◇審査員応援賞 『リサイクル鉄で描くわびさびの世界』／すがわらじゅんいち(宮城県利府町)

「日本人のこころ 侘び寂びの世界」 質素を第一とする思想、はかないものを愛する心、これが、日本人特有の美しさを形成している。港町塩竈市の環境から生まれた、鉄錆を使っての作品作成はその風土から生まれたもの。独特な質感と色彩で現代社会に必要な美意識の再認識をすることが最大の目的。鉄粉をコラージュしたこの一連の作品は実に日本的な質感と手触りがある。それはものが朽ち果て、失われてゆく様の儚さを表現。作品にはぬくもりがあり手で触れて奥ゆかしさを感じていただける作品構成を心がけている。



【カルチャー部門： エコミュージック】

◇グランプリ 『地球ワット』／森のシンガーソングライター証(あかし)(東京都多摩市)

人間一人一人が「少しずつ」力を集め自然からも「少しずつ」力をもらえばちゃんと「必要なだけ」力が集まる。「地球ワット」はいろんな人間が 1ワット、自分の力でエネルギーを発すれば、いつの間にか大きな力になって、きっと問題は解決する、そんなメッセージを込めました。問題点としては、様々な要素を臨機応変に受け入れるための、社会の仕組みを作り上げるのが、難しいのだと思います。

♪地球ワット

僕の手は1w あなたなら3w 手を繋いだらもっと 強いのだ
 僕の手は1w 気が付いたら10w 君が思うよりもっと 強いのだ
 喜怒哀楽 生きている 僕らのこのエネルギーを
 風も太陽も火も生きている 力を貸すよって言う
 僕の手は1w いつか勇気が100w 君が思うよりもっと 強いのだ
 君の手を僕があたためる それだけのことなのに
 大き過ぎる火が必要だなんて
 誰も決めてやしない

◇準グランプリ 『「エコしちゃおう」』/JARA(山口県宇部市)

未来の美しい地球の為に省エネ・エコの大切さを解りやすい「言葉」と解りやすい「リズム」で制作した。作曲は電源不要のエコな楽器「ウクレレ」だけで制作し、レコーディングのアレンジはノリの良い”レゲエ風”で仕上げた。この楽曲を環境イベント・コンサートで歌う際にはいつも「ウクレレ」のみで歌っている。演奏・歌唱の際でもスタイルとして「エコ」を唱えるためでもある。この楽曲でより多くの方々が自然環境の大切さや省エネ・節電の大切さを改めて感じ、環境貢献活動の実施をして頂けることを望んでいる。

♪「エコしちゃおう」

青い地球を守りましょう みんなの力で守りましょう
 身近にできる省エネで 未来のためにエコしちゃおう
 電気は小まめに消しましょう テレビは見なけりゃスイッチ切って
 エアコンの掃除もマメにしましょう 風呂の残り湯で洗濯しましょう
 青い地球が 真っ赤な顔して プンブンブン 怒ってる
 エコ エコ エコ エコ エコ エコ エコ エコ
 みんなで今日から始めましょう
 エコ エコ エコ エコ エコしちゃおう
 え～子は地球を守りましょう

◇審査員応援賞『STOP! むだづかい』/村下 歌恵(東京都中野区)

短く分かりやすく作りました。
 エコ活動に楽しく取り組むシーンで流れる曲です。
 紙、箱、水、缶など様々な音を入れ、リズムカルになっています。
 曲のイメージカラーは黄緑と水色です。

STOP! むだづかい



【ライフスタイル部門： エコチャレンジ！】

◇エコチャレンジ！大賞 『「STORY MARKET の提案」』/衣類のこれから探求ユニット(岡山県玉野市、岡山市)

衣類のこれから探求ユニットが、eco japan cup で提案するのは「STORY MARKET」。拠点としている岡山中、楽しいフリマを作ろう！と考えたのが事の発端。服にまつわるエピソードやストーリーを添えて売るのはどうだろう。くすっと笑ってしまうもの、あたたかい気持ちにさせるもの、それはモノの付加価値になる。地域や個人で取り組める、楽しくてエコに繋がるコミュニケーションの場として、私たちは「STORY MARKET」を提案する。



◇審査員応援賞 2組

『水質浄化システム「バイオエンジン」』

／青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS(青森県南部町)

湖沼や河川にアンモニア態窒素やリン酸を含んだ生活排水が流れ込み、富栄養化という水質汚染が各地で発生。アオコと呼ばれる藻が大量発生し、水中の酸素濃度が減少、水生生物に影響を与える。都市公園の修景池などは、水の交換が少ないため悪臭を発生しやすくなる。そこで考案したのがサンパチェンスという草花を使って水を浄化する水質浄化システム「バイオエンジン」。東京でオリンピックの際はきれいな環境と景観を作り出すエコなバイオエンジンで、世界のみなさんを「おもてなし」したい。



『ゼロ・エミッションで兵庫を元気に～播農から始める新たな物語～』

／兵庫県立播磨農業高等学校(兵庫県加西市)

『ゼロ・エミッション』をコンセプトにして、廃棄物を資源として、農業で有効活用できないかと考え、醤油粕の有効利用についての研究を行っている。醤油粕に含まれる、有用な微生物や機能性成分・微量元素に着目し、これらの成分が家畜の腸内環境をよくなり、飼料の消化吸収率を高めるのではないかと考え、実験を行った。醤油粕を家畜の飼料として利用することで、生産物に付加価値をつけ、地鶏である、『ひょうご味どり』のブランド化を目指し実験を行っている。



【ライフスタイル部門： みんなで創る“エコまちづくり”】

◇エコまちづくり大賞 『天竜グリーンプロジェクト 里山ガーデンづくり』／みやこ大自然学校の会(静岡県浜松市)

みやこ大自然学校の拠点である里の家は古民家と田畑と森がある典型的な里山にあり、森を暮らしに必要な里山へと再生中です。昨年度リフォームを行い、かまどをつくり、薪の風呂釜を設置して薪の生活をしています。2012年から進めている「天竜グリーンプロジェクト」のひとつ、里山ガーデンは山とまちをつなぎ、森の恵みを頂き、里山のような自然の循環を取り込むことで、豊かな暮らしとコミュニティを提供する取り組みです。



◇奨励賞 『楽しい体験型環境学習教室開催で “みんなで創るエコまちづくり2014”』

／環境学習サークルみえ(三重県四日市市)

自転車発電体験、手作り発電実験教室、風力発電工作教室等、楽しい体験型環境学習メニューを組み合わせせたプログラムで、出前教室を実施しています。活動は、小中学校や環境イベント、市民文化祭や地域のお祭り、公民館活動、NPO 団体からの要請に積極的に答えます。子供から大人まで、地域の人と協働で楽しい環境体験教室を開催し、「地球温暖化防止を伝える活動」を広めています。市民がつくるエコまちづくりを目指します。



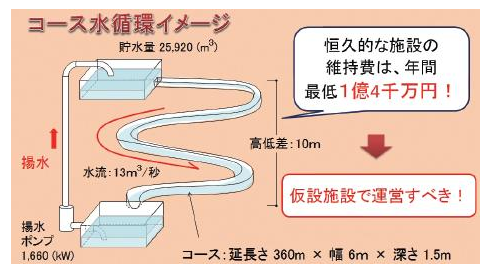
【ポリシー部門： 環境ニューディール政策提言】

◇グリーンニューディール敢闘提言

『2020年オリンピック東京大会カヌースラローム競技場見直し計画の再考と提言』

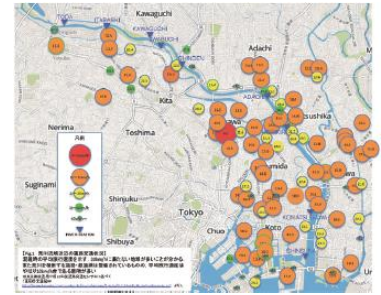
／DEXTE-K(東京都中央区)

カヌースラローム競技場は、相当量の水量を人工的に発生させ、かなりのエネルギー消費を費やす。競技場施設で消費されるエネルギー量を試算し、施設維持費を考察した結果、持続可能な地域社会づくりとして不必要なことが明白になった。大都市と自然との共存や生物多様性保全のほかに、エネルギー消費の観点で問題点を広く認知してもらい、不必要な社会資本整備の在り方について問題提起する。さらには今後のオリンピック大会におけるカヌースラローム競技開催のありかたを提案する。



◇サステナビリティ取組提言 『ソーシャル舟運で拓くポストモータリゼーション』／河田 法之(埼玉県朝霞市)

首都圏荒川流域において既存の舟運事業者、インフラ等の資産を共有・活用し、行政・企業・市民セクターが連携して運営に携わる「ソーシャル舟運」を導入することで、車に依存する社会から河川舟運を活用した交通システムに転換し、物流効率の向上および交通機関からの炭酸ガス排出削減による地球温暖化防止を図るとともに、モータリゼーションの過剰な発展によって失われた地域コミュニティを活性化する。



<REVIVE JAPAN CUP 2014>

【ビジネス部門： 復興ビジネス・ベンチャーオープン】

◇大賞 『日本の農業を成長輸出産業とする事業』／株式会社ラジアント(東京都品川区)

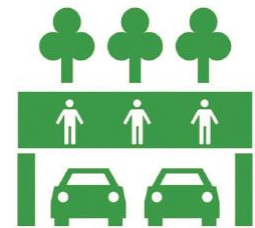
冬、土壌に埋設した温水パイプを通し土壌を加温・蓄熱し、更に夏、太陽熱を利用し土壌を熱消毒できる「深層地中加温(ラジアント農法)」は農水省より「環境保全型農業」と認定され、又物理的防除剤として登録されている。連作障害防止を実現し有機農産物が生産できるこの農法の熱源を、再生可能エネルギーを活用することで農地の40%を占める中山間地にも適応できる。分散型農業を確立し過疎地域の活性化と世界的に人気の高い有機農産物を我国の成長輸出産業とする。



◇取組賞 2組

『駐車場の“空中”から始まる無限の可能性 「駐車場」「人」「植物」が共存共栄できる「フィル・パーク」事業』
／株式会社フィル・カンパニー(東京都千代田区)

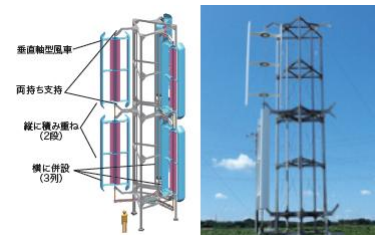
コインパーキング等の駐車場の上部空間を活用した空中店舗に土地オーナーの思いやその地域に必要なものを取り入れ、新たな価値を創造しわかちあうことで、共存共栄(=Phil)の社会実現を目指す。“駐車場を残す”という発想で空中部分を店舗として活用できれば、土地オーナーは収入が増え、店舗を出したい人には新たな場所を供給することができ、地域の人々には新たな人と人の繋がりの方ができる「三方良し」の地域活性化モデル。



『積み重ね式風力発電機(災害時に移動可能な風力発電機の開発)』

／株式会社ダイモン(埼玉県新座市)

現地組立・分解可能で災害時にも移動可能で、合計 30kW 相当の発電能力を持ち売電として十分な容量を持つ。原発汚染からの解決モデルとして活用でき、環境改善・復興のシンボルとして貢献する。再生可能エネルギー実現モデルとして復興地から世界に発信し、精神的誇りを獲得する。安心・安全な電力の供給源として、復興地に計画配備することで、実益電源として貢献。新たな市場として、復興地中小企業の参入を促進する。



【カルチャー部門：デザイン】

◇グランプリ 『レッツ！こぼりんダンス』

／高橋延昌・会津大学短期大学部(福島県会津若松市)

今の福島県に住む人々にとって、食と健康は大事なテーマ。

これまでも地域と連携した食育活動がおこなわれているが、現状はさらに市民へ親しみをもって、食の問題や、心身の健康に対して意識をさらに高めてもらう必要性が出てきた。市民の食と健康のため、新たなプロジェクトとして食育PR「レッツ！こぼりんダンス」をつくりあげることになった。

また、会津若松市を通じて市内全ての小学校や教育機関にダンスの楽曲や見本が配布され、普及を通じて、市民の健康意識が高められ、震災後の運動不足解消にも通じると思われる。



◇準グランプリ 『東北の県産材の杉材を活用した『学校教室家具』』／榎本 文夫(東京都中野区)

東日本大震災による被害に苦しむ各地域では、林業、木材産業の復興と併せて、環境教育も大きな課題である。東北各県産材の杉材を活用してデザインされた学校用家具は、それ自体が「森林資源の保全」「循環型社会の構築」といった難しい問題を、子どもたちが身近に捉え、楽しく学習を進めるきっかけとしての重要な『教材』となる。暖かみや親しみのある素材である杉に子供のころから親しむことで、自然との共生や環境問題に対する意識を身に付け、持続可能な社会の実現につなげていきたい。



【カルチャー部門：アート】

◇グランプリ 『明日に架ける橋/Bridge Over Troubled Water 』／武谷 大介(神奈川県葉山町)

宮城県女川町の沿岸部の広大な更地にて、町内出島(いずしま)へ橋を架けるという島民及びに女川町民の悲願をアート作品という形で体現することで、町内の復興へのモチベーションを底上げし、未来へ向けた前向きな雰囲気醸し出す事を目的として制作された。制作に使用した流木は町内沿岸地帯へ流れ着いた物を使用し、震災にて亡くなられた方々や失われたまちへの鎮魂、自然や大地に対する感謝を表す事もまた大きな目的である。



◇準グランプリ 『ひかりフォト』／すがわら じゅんいち(宮城県利府町)

「ひかりフォト」は日中と夜間・暗所時二つの変化で作品が楽しめる。

基礎となっている「蓄光塗装膜開発」は異業種交流から生まれたもの。

月の光のように優しく・美しく輝くキャンパスが欲しかった。10年と言う歳月をかけて今こうしてひとつの作品になり、人々の懐かしい心に挑戦してゆく。

この企画はいわば、思い出・記憶と優しい光を使ったコミュニケーション。

また懐かしさを大切に人々が増えることで、エコに対する向き合い方も進歩することを期待して止まない。



【カルチャー部門：ミュージック】

◇グランプリ 『団地音頭』／3 兄妹ソーシャルバンド一途(福井県鯖江市)

『団地音頭』は、宮城県石巻市の仮設住宅の男性が「仮設住宅に住むみんなの心を一つにしたい」という願いから歌詞を書き、その想いに共感した3兄妹バンド「一途」がメロディを作ることで完成。さらに仮設住宅の女性たちが振り付けを考案し、踊りのグループを結成。彼女たちは地元のイベントで踊りを披露し、活動の幅を広げている。仮設住まいに疲れを感じつつある方々が外に出て皆と『団地音頭』を踊り、目を合わせ笑い合うことで再び心にパワーが生まれ、新たな一歩を踏み出す。そんな復興への希望を込めた楽曲。

♪団地音頭

アヨイショ！ソレソレソレソレ！アヨイショ！
ハアー 老いも若きも 子ども等も
みんな笑顔で 集まって
心ひとつで 元氣よく
今宵ひととき 楽しもう
踊れ踊れよ 輪になって(踊れ踊れ)
団地音頭で サアサ
団地音頭で 賑やかに

◇準グランプリ 『商人魂(あきんどソウル)』／岩本 恵里(愛知県春日井市)

悲しく辛い経験をした東北の商売人達は、その気持ちを心にしまい、自身の周りにいる人達へ笑顔に向けている。故郷を元気にするには、まず自分たち商売人から元気を発信していけないと、と頑張っている。そのパワーは、東北のみならず、日本全体に広がるべきものだと考える。この楽曲により、東北の底力が日本全体に広がりますように。そんな願いを詰め込みました。

♪商人魂(あきんどソウル)

TVの中に見えるのはほんの一部分だけで、とかあちゃんはいつもの元氣な顔を曇らせて言う
私ら商人の暮らしは まだまだ戻らない、とかあちゃんは 気丈な顔で悲しい目をする
だけど 私らが笑っていなけりゃどうする、と したたかな商人魂
気張って 気負って 笑顔を作る
魚屋のおっちゃんも 八百屋のおっちゃんも
お肉屋のおっちゃんも それ支えるかあちゃんも
泣きたい 泣きたい でも泣かない、泣いても暮らしは戻らない
私らから この故郷を元気にしなけりゃね、とかあちゃんは いつもの元氣な顔をする

【ライフスタイル部門：復興チャレンジ！】

◇復興チャレンジ！大賞 『古Tシャツを集め、それを使用して草履をつくる。』

／一般社団法人 コミュニティスペース うみねこ(宮城県女川町)

震災で家も家族も仕事も流されてしまいました。

それにより、2011.3.11 よりたくさんの方が新たな一歩を進みます。

その中で自分ができるものを探して活動しました。

古Tシャツを集め、それを使用して草履をつくる。

様々な方が作っているものと違うものと思い、鍵網で編むものを作りました。

2011.7 月ごろよりはじめ現在までつづいております。

はじめは、7人でスタートしたのですが現在は30人の方々に楽しんでおります。



◇審査員応援賞 2組

『ティルト担架付三輪自転車(自力移動困難者における避難の切り札)』

／石川 成道(東京都多摩市)

津波などの災害避難時に、自力移動困難者を安全かつ迅速に避難させることと、安価で普段も使いやすくすることの2点を目的とする三輪自転車。

平均避難移動距離や時間の面からも、自転車による避難の有効性が示唆されており整備が進められているが、障がい者や高齢者の対策は遅れている。

通常の電動三輪自転車に折りたたみ式担架を配備するだけで、寝たきりの方々の緊急避難に大きく役立ち、右記のような特徴を有する。

ティルト担架付三輪自転車

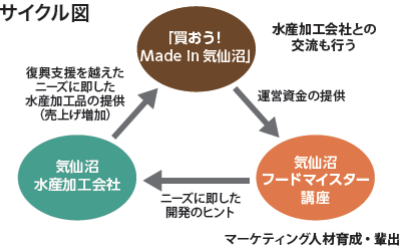


『「買おう！ Made in 気仙沼」』

／気仙沼の水産加工品の定期購買を通じたマーケティング人材育成事業』 一般社団法人気仙沼仕事創出プロジェクト(宮城県気仙沼市)

「買おう！ Made in 気仙沼」とは、気仙沼の水産加工品を東京圏のお客様が一口2万円にて購入する定期購買の事業。3ヵ月に1回水産加工品のセットをお届け。お客様は「美味しいものを食べて応援」ができ、水産加工会社は売上予測ができる。東京圏の水産加工品へのニーズ調査。気仙沼の物産展、マルシェの販売サポート「気仙沼を食す会」の開催など。「気仙沼フードマイスター講座」にて気仙沼の水産加工品の新規開発や商品のアレンジを行う。

■事業サイクル図



【ライフスタイル部門： みんなで創る「新しい東北」復興まちづくり】

◇復興まちづくり大賞 『「東北から全国へ発信！！ 災害時・非常時食レシピ集』』

／独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台病院（宮城県仙台市）

3.11、その瞬間から経験した全てを一冊の本にまとめ、出版した。震災の教訓をもとに私たちは立ち上がり、調理師が美味しさを追求したメニューを考案、管理栄養士が栄養面で考察を加えることで多様な治療食に対応可能なレシピを作成している。更に、石油ストーブを使った新たな調理法に挑戦し、この企画を全国へ広げ、皆様のお役に立てるよう、このプロジェクトに参加した。



◇奨励賞

『福島ひまわり里親プロジェクト』／特定非営利活動法人チームふくしま(福島県福島市)

震災で仕事が激減した福島県二本松市の知的障害者通所施設の仕事として、ひまわりの種のパック詰めを依頼。その種を購入し、育て、採れた種を福島に送って頂く「里親さん」を全国から募集。送り返してもらったひまわりを、福島で復興のシンボルとして咲かせることで、観光誘致や、全国と福島の絆作りを行う。また、累計1000校以上の教育現場で種を活用していただき、震災教育、防災教育に活用して頂いている。

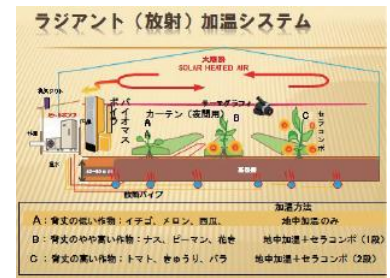


【ポリシー部門：「新しい東北」復興政策提言】

◇復興政策優秀提言 『日本の農業を成長輸出産業とする事業』／株式会社ラジアント(東京都品川区)

※復興ビジネス・ベンチャーオープン大賞とダブル受賞

冬、土壌に埋設温水パイプを通して土壌を加温・蓄熱し、夏、太陽熱を利用し土壌を熱消毒できる「深層地中加温」は 農水省より「環境保全型農業」と認定され、連作障害を防止し 有機農産物を生産できる。この農法に再生可能エネルギーを活用し、夜間はカーテンと遠赤外線放射体の放射加温で大幅な省エネを実現、全ハウス に設置すると年間約 550 万トンの CO2 削減となる。農地の 40%の中山間地に適応し、過疎地域の活性化と有機農産物を我国の成長輸出産業とする。



◇復興政策敢闘提言

『次世代 CATV 局(スマート CATV)が促進する、産学官民が一体となった誇りと地場産業のある街づくり』／黒須 幹夫(岩手県花巻市)

被災地復興に向けて社会貢献意識の高い民間企業を PFI 手法で公募し、官の強み(地域振興)と民の強み(サービス向上)を融和した官民一体の強みと、民間の自由度を併せ持つ地域活性化型の CATV 局を設立する。これにより①スマートヘルスケア(CATV の遠隔健康相談システム)②自然エネルギー事業(電力の地産地消システム) ③パブリックアクセスシステム(住民参加の番組づくりによる街づくり)の3つの付加価値を提供する。



●凡例 ※1. 地方自治体=被災地の市町村 ※2. PFI 手法=公共施設の民営民営方式
 ※3. SPC=特別目的会社 ※4. P/F=プロジェクトファイナンス(ノンリコースローン)
 ※5. アライアンス=次世代 CATV 局と NTT 東日本のインフラ借用における業務提携